

オレゴン州：小麦作柄と気象状況

2005年7月26日

2005年7月24日現在の概況：

7月24日に終わる週の気象は、前週の気象と略同様な高温・乾燥気象であったが、気温は更に上昇し、降雨は殆ど記録されなかった。

Willamette 盆地での最高気温は94~100度Fとなり、平均気温は平年を3~9度F上回った。NC地区の最高気温は96(Moro)~103度F(Pendleton)であった。平均気温は平年を4~9度F上回った。1週間の州平均農作業稼働日数は7.0日(前週:6.9日)であった。NE地区の昨年9月1日から7月24日までの積算降水量は、どの観測所に於いても平年の80%程度である。Topsoilの土壌水分は急激に減少したが、Subsoilの水分は前週と比較し変化が無かった。好天が続くWillamette盆地の冬小麦の収穫が進んだ。NC地区のUmatilla郡では35%の冬小麦の収穫が完了した。春小麦の枯熟が急速に進み、全体の20%が収穫された。高温続きで春小麦の圃場を灌漑する農家が有った。冬小麦は全州の29%が収穫された。冬小麦の進捗は略5年平均並であったが、春小麦は昨年並びに5年平均より早まった。

冬小麦の作柄は“Excellent”が減り、“Poor”、“Fair”が増え全体として前週より評価が落ちた。乾燥・高温の為春小麦は急激に枯熟し、作柄評価は更に顕著に落ちた。

7月1日付けUSDA発表の冬小麦の生産予想では、単位収量は6月1日付け発表の58.0 bushels/acreより3 bu/ac多い昨年実績と同じ61.0 bu/acとなった。春小麦の生産量では、単位収量は昨年実績より良く57.0 bu/ac(昨年:48.0 bu/ac)であった。6月からの降雨により土壌水分が改善された事、急激な温度上昇が無かったことがプラス要因となった。詳細は別表の通り。

土壌水分：7月24日現在

	Very short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	16	49	35	0
Subsoil (%)	16	42	42	0

小麦生育状況：7月24日現在

	This Week	Last Week	Last Year	5-Year Ave.
Spring wheat Harvested (%)	20	1	14	12
Winter wheat Harvested (%)	29	21	21	30

小麦の作柄状況：7月24日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent

Winter Wheat					
This week (%)	0	16	26	46	12
Last week (%)	1	11	30	34	24
Spring Wheat					
This Week (%)	21	29	12	29	0
Last Week (%)	15	23	25	35	2

Source: Oregon Agricultural Statistics Services

7月1日付けUSDA発表冬小麦の生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 Acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 Bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
June 1				July 1			
OR	780	840	61.0	58.0	61.0	47,580	51,240
USA	34,462	34,271	43.5	44.1	44.5	1,499,434	1,525,302

7月1日付けUSDA春小麦生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
June 1				July 1			
OR	175	125	48.0	-	57.0	8,400	7,125
State	13,174	13,637	43.2	-	43.2	568,918	588,740

この作柄・気象レポートに関してのご質問は下記にお願い致します。

小川正晃：<mailto:ogawa.max@omicnet.com>